

高齢者活用は会社と地域を良くする

「半数が高齢社員」の部品会社トップが語る ▼加藤製作所社長 加藤景司氏講演

当社は、電気設備、自動車、航空機向けの金属部品を作っています。特徴は1100人の従業員のうち、半分が高齢者であること。定年後の再雇用は16人で、新たに採用した高齢者が37人います。現場で働く最高齢は79歳です。

本社のある岐阜県中津川市は、人口のおよそ3人に1人が65歳以上。高齢者雇用はこの地域に合った自然なかたちです。都会もすぐに中津川のように高齢化が進みますよ。私たちの取り組みは決して特別なものではありません。

高齢者が一人前に働けるのか、という疑問を持つ人がいるかもしれませんが。毎日出勤ではないので、仕事の仕方を忘れたり、専門的な言葉を覚えるのに苦労した人もいます。



加藤製作所の加藤社長。次世代型会社づくりの模範例と評価が高い

採用基準は、明るいか 笑顔はいいか

けれど、業界は違っても長年仕事をしてきた人たちですから、自分自身で工夫して、しっかりと吸収していきます。では、どんな高齢者を採用すればいいのか。私たちが重

視している採用基準はとても簡単で、明るいかどうか、笑顔がいいかどうかです。60歳を過ぎると人生が顔に出ます。笑顔が素敵な人は、前向きで元氣な生き方をしてきた人。

未知の仕事にも挑戦したいという勇気があります。

こうした人たち

に働いてもらうと、彼らはさらに若返り、元氣になっていくので、若手社員の刺激になる。お客様への対応もいい。高齢者が働く場があるのは地域にもいい。仕事が少ないときには休んでもらったりして、人件費を変

動費に変えられるのもいい。一石三鳥にも四鳥にもなる。

このようにメリットは多いのですが、ではどんどん高齢社員を増やせばいいのかという、それでは会社が将来的に困る。ですから高齢社員と若手社員の役割分担をはっきりさせ、若手にどう育てほしいのかを示さなければならぬ。それが高齢者活用で見落としがちな点です。

機会があれば、当社に来てください。高齢者活用には、短時間でも働きやすい柔軟な勤務体系に改めたり、ハード面でもバリアフリーを取り入れたりするなど、環境整備も大事です。そうした点を皆さん自身の目で確かめてもらうと、高齢者活用のポイントがよく分かると思います。(談)

【社長力アップ講座・2014年第5回】

「シニア社員の手で優良企業をつくる～高齢者採用・活用の加藤製作所に学ぶ～」と題して、加藤社長が講演。当日は、工場の様子をDVDで披露し、高齢化社会の現状、高齢者採用・活用のメリットや注意点を解説した(7月16日東京)